

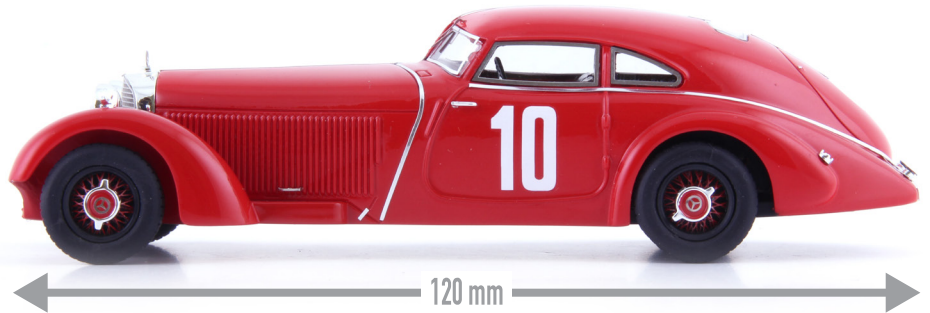
Scale 1/43

#07019

available

07/2021

Limited edition 333 Stk.



封建的な外観

1933年に「ドイツ縦断2000km」というわかりやすい名前ですべて初めて企画された長距離レースは、一見、スポーツ競技として公布されていたが、その裏にはドイツの自動車産業の能力を示すという明確な意図があった。1934年のイベントでは、軍団長のアドルフ・ヒューンラインの指揮下に置かれ、そのため産業界はより強く関与を求められた。その中で最も有名なのは、メルセデス・ベンツの新型タイプ150が6台デビューしたことだった。

しかし、それはシュヴァーベンの子会社にとっては十分ではなかった。追加で「ファクトリーカー」と称して長距離移動用に計6台が製造された。それらのモデルは新開発の「コンプレッサー付きタイプ500」をベースにしていた。新型500メルセデス・ベンツは実際にはスポーツカーとして設計されたわけではないのだが、長距離運転に適応させるため、時として非常にスポーティで活発な運転スタイルにボディを適応させることに労力が傾けられた。レースに使われた車両のうち、カブリオレ仕様とクローズド

ボディのスポーツ仕様があった。クローズドボディのほうのクーペバージョンは、「スポーツ・ロードスター」という名称で文献に掲載されており、若きルドルフ・ウーレンハウツが製作した。

タイプ500のボディの改造には、流線型のデザインが採用されたほか、市販モデルと比較してさまざまなマイナーチェンジが行われた。しかし、最も精巧に作られていたのはその流線型のボディのデザインであった。その空気力学的シルエットはおそらく鉄と木材の下部構造がベースとなっていた。後部部分は、折り畳み式の小窓とスペアホイールを覆うカバーを備え、非常に美しいデザインとなっている。シュヴァーベンの工場でのどのような作業が施されたのかは、6台のレーシングカーのその後の運命と同様ほとんど知られていない。唯一確かなことは、その中の1台も今日まで残っていないということだ。

AutoCult GmbH
Äußere Further Straße 3
90530 Wendelstein
Germany

電話番号 +49 / 9129 / 296 4280
ファックス +49 / 9129 / 296 4281
info@autocult.de

www.autocult-models.de